JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	携帯電話利用リードユーザの動向と携帯電話が与える影響(科学技術と社会・倫理問題,一般講演,第22回年次学術大会)
Author(s)	米川，雄基；杉村，武昭；西村，由希子；及川，博道；玉井，克哉；西村，邦裕；岩崎，匡寿；伊藤，卓朗
Citation	年次学術大会講演要旨集，22：1069-1072
Issue Date	2007-10-27
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/7465
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

２Ｉ１９

携帯電話利用リードユーザの動向と携帯電話が与える影響

○ 米川雄基，杉村武昭(知的財産研究推進機構)，西村由希子(東京大学)，
及川博道(知的財産研究推進機構)，玉井克哉，西村邦裕(東京大学)，
岩崎匡寿，伊藤卓朗(知的財産研究推進機構)

1. イントロダクション

近年の携帯電話の急速な技術革新により、携帯電話は単に電話としての役割だけではなく、メールやインターネット、カメラ機能などに始まり、決済機能(おサイフケータイ)や２次元バーコード認識機能(QR コード)、また位置確認機能(GPS)など様々な機能が追加され、より多機能な個人情報端末「ケータイ」としての役割を担うようになってきている。そしてそれらの機能に対して携帯電話会社(キャリア)は新しいサービスを次々と開始するため、ユーザがケータイから利用出来るサービスの幅は急激に広がっている。

サービスの多用化は、そのサービスを受けるユーザの利用形態についても多様化を引き起こす事が予想される。そこで我々は、これまでの調査研究において、ケータイの各機能に対してユーザである消費者がどの程度知識を持ち、また利用しているのかについてアンケート調査を行って来た。その結果、ユーザごとの主に使用している機能の違いから、ケータイユーザが４つの特徴的なグループに分類される事を明らかにした。本研究では、それら４つのユーザタイプ(「低利用型」「コミュニケーション型」「ケータイ強者」「先進機能利用型」とここでは呼ぶ)の中でも、特に新しい機能やサービスを広く使いこなすという特性を持つ「先進機能利用型ユーザ」(ここでは「リードユーザ」と定義する)について、その利用動向を詳細に調査分析する事を目的とした。

これまでの調査から、リードユーザが利用するケータイ機能と他のユーザが利用する機能群を比べたときに、リードユーザについてのみ「おサイフケータイ」の利用頻度が高い事が分かっている。そこで今回は「おサイフケータイ」を利用しているケータイユーザを対象に、パーソナルコンピュータ(PC)およびケータイでそれぞれ日常的に利用している機能やサービスの種類について、またそれらサービスの利用がリードユーザ自身の生活に対して与える影響について調査を行う事で、リードユーザの現状と利用動向の分析を行った。新しい機能にいわば「順応」しているリードユーザの実態を調べる事によって、ケータイに対する先進ユーザの視点についての見解を得る事ができ、同時にケータイ自体の機能発展についての方向性を指し示すデータが得られると考えている。

2. 調査手法

調査は 2007 年 4 月 8 日にインターネットを用いたウェブアンケート調査によって行った。対象者はおサイフケータイを使用した事があるという人に限定して、計 1,236 名から回答データを得た。調査アンケートの質問項目として、まず PC やケータイで利用するウェブ上のサービスについて、月１回以上

利用しているサービスの種類を回答してもらった。質問の内容と選択肢については表 1 に示している。次に、それらウェブ上のサービスを利用する事で、「人間関係」「所持する物」「金銭面」「得られる情報」「時間」「仕事/学業」というそれぞれの側面から、自分自身が「良い影響を受けたか」「悪い影響を受けたか」という評価軸で、 5 段階評価で回答してもらった。

質問	あなたが、パソコンを用いて、月1回以上利用しているサービスを下の選択肢から全てお選び下さい（複数回答可）
オークション	•Yahoo!オークション •楽天オークション •bidders
ソーシャルネットワークサービス(SNS)	•mixi •モバピ •GREE •Gocco
その他	•Skype •Google talk •MSNメッセンジャー
その他	•Second Life •MMORPG(100人以上が参加するオンラインゲーム)
その他	•Blog •ソーシャルブックマーク •RSSリーダー •インターネットショッピング •Gmail •Google カレンダー •Google グループ •Google Docs & Spreadsheets •オンラインバンキング •その他

質問	あなたが、ケータイを用いて、月1回以上利用しているサービスを下の選択肢から全てお選び下さい（複数回答可）
オークション	•Yahoo!オークション •楽天オークション
ソーシャルネットワークサービス(SNS)	•mixi •GREE Mobile •EZ GREE •Gocco •モバゲータウン •Activo •モバピ
その他	•Blog •ソーシャルブックマーク •RSSリーダー •インターネットショッピング •オンラインゲーム •Gmail Mobile •オンラインバンキング •その他

表 1. アンケートの質問内容詳細(PC やケータイで利用するウェブ上のサービスについて)

3. 調査結果

まず今回のアンケート対象者(おサイフケータイユーザ)の構成について、年齢構成割合と職業構成について図 1 に示した。なお、今回のアンケートでは男女共に 618 名ずつ回答を集め、男女比の偏りを無くしている。

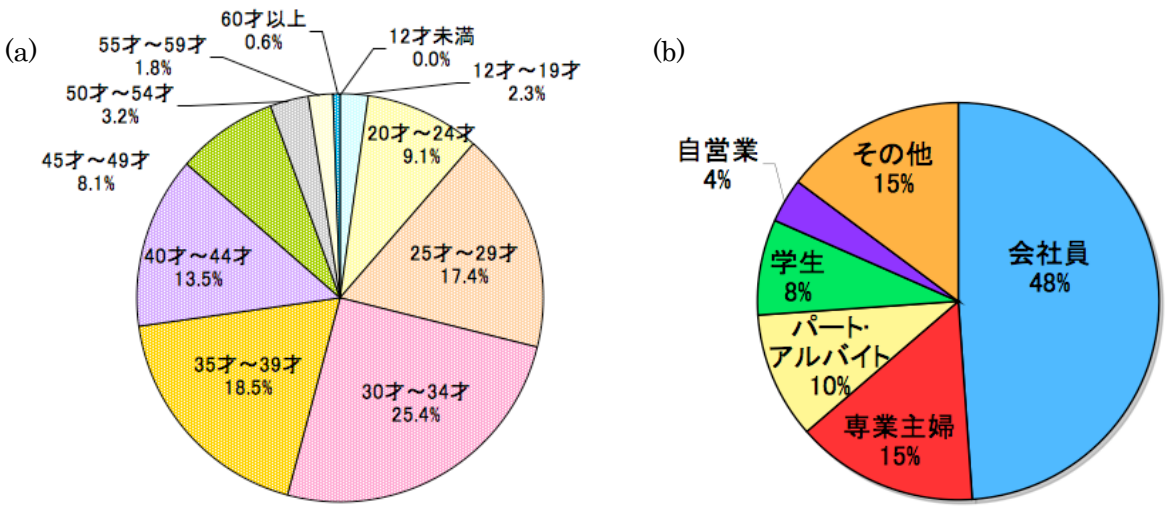


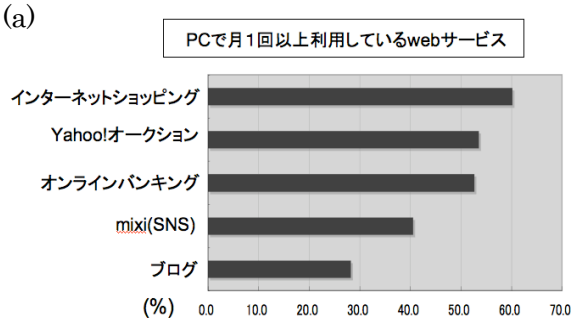
図 1 . アンケート回答者の年齢構成(a)と職業構成(b)

図 1 (a)より、おサイフケータイユーザは 20 代や 30 代に比較的多く存在し、20 代で全体の 23.5%、30 代では全体の 22.5%を占めている事が分かった。また図 1(b)より、おサイフケータイユーザの職業構成については会社員が全体の 48%を占め、次いで専業主婦、パート、アルバイトがそれぞれ 15%、10%

の割合を占めている事が分かった。

次に、これらの「おサイフケータイユーザ」が PC 及びケータイで月に 1 度以上利用するウェブのサービスについて、利用率の高いものから上位 5 つをそれぞれ図 2 に示した。

(a)



(b)

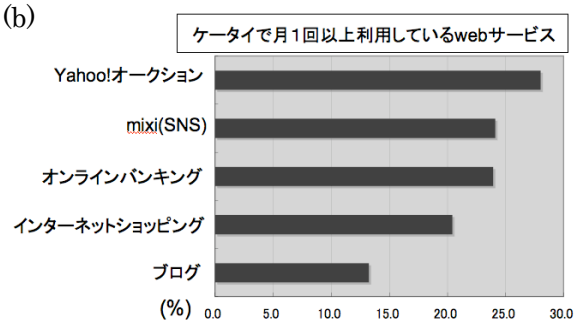


図 2 . PC(a)及びケータイ(b)で、月 1 度以上利用しているサービス

図 2 (a)より、PC では月 1 度以上利用しているサービスとしてインターネットショッピングが 1 位を占め、それに次ぐサービスの中で Yahoo!オークション、オンラインバンキングについての利用率がそれぞれ 50%を上回っていた。さらにそれらのサービスに次いで、mixi(SNS)やブログなど、コミュニケーションを目的としたサービスが高い利用率を示していた。ケータイを利用したサービスについては、PC と同様に Yahoo!オークションやオンラインバンキングの利用率が高く、mixi(SNS)についても同様に高い利用率を示していた。

次に、これらのサービスを PC やケータイで利用して来た事で、金銭面や人間関係など、いくつかの側面からユーザ自身が受けた影響について聞いたアンケートの結果を図 3 に示した。図 3 では、グラフの左の項目から「良い」「どちらかというと良い」「どちらともいえない」「どちらかというと悪い」「悪い」影響を受けているという評価を示している。図 3 より、得られる情報への影響で「良い」「どちらかというと良い」と答えた人は全体の 67.7%で、同様に所持する物への影響については 49%、金銭的な影響は 36.3%であった。逆に得られる情報への影響で「どちらかというと悪い」「悪い」と答えた人は全体の 1.9%であり、同様に所持する物への影響については 2.3%、金銭的な影響については 12.6%であった。

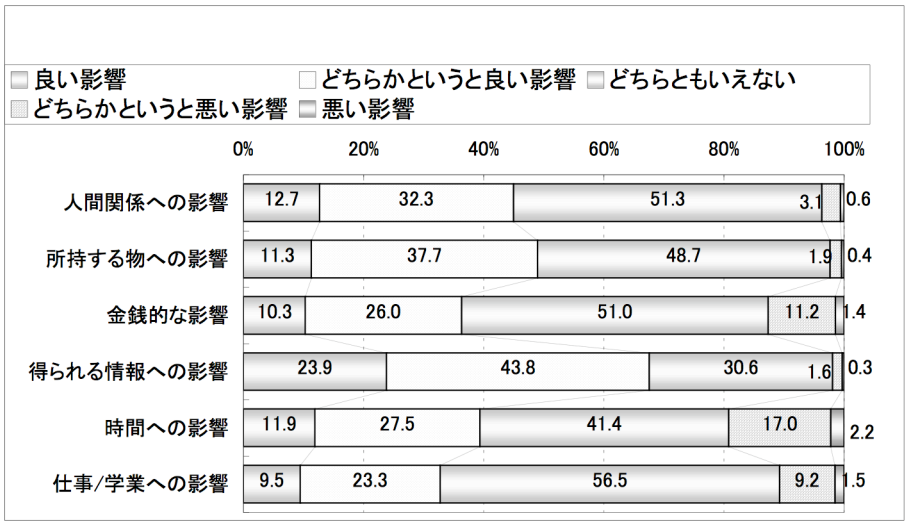


図 3. ユーザがケータイ、PC の利用によって受けた影響についてのアンケート結果

4. 考察

図 2 の結果から、リードユーザが PC とケータイでそれぞれ利用するウェブ上のサービスには、目立って大きな違いは存在せず、特にオークションや SNS の利用については PC とケータイでの利用形態の相違が小さくなっている事が明らかになった。PC でも利用できるサービスについての利用率がケータイでも高いという事から、ウェブのサービスの利用においてケータイが PC の代替品としての役割を担っていると考えられる。また、図 3 の結果から、ケータイや PC のサービスの利用によって、良い影響を受けているという認識が悪い影響に対して各項目で比較的高い事が明らかになった。この事から、新しいサービスや機能に順応しているリードユーザがそれらのサービスの利用について肯定的な認識を持っている事が分かり、リードユーザのこのような傾向は、今後発展していくケータイ、PC の新しいサービスについても発揮される事が予想される。

5. まとめ

今回は、インターネットを用いたアンケートから、おサイフケータイを利用している「リードユーザ」が利用する機能やその利用によるユーザ自身への影響について、アンケート調査による調査分析を試みた。今後はよりリードユーザの特性を詳細に分析するため、例えばケータイの利用によって受けた影響の各項目と利用している機能との間で、その相関関係の有無を因子分析などの手法を用いるなどして、より多角的なアプローチを行っていく。また、今後はケータイの発展を考える上で、その発展にともなうネガティブな側面(ケータイを利用した犯罪の増加など)についても言及すべく、ケータイによって悪い影響を受けると考えるリードユーザにその理由をヒアリングするなどして、定性的なデータの取得についても行っていこうと考えている。